

ホライゾンタルオフENSE

ホライゾンタルオフENSEとは2000年頃から北米のトップチームが採用しはじめた新しいオフENSEパターンです。それまで主流であったオフENSEをパーティカルオフENSEと位置付け、それに対して垂直のスタックを組むのでホライゾンタル（水平）という名前がついたと言われています。

まず、ホライゾンタルオフENSEでは、パーティカルオフENSEと全く違うポジショニングになります。（図 1.1 参照）まずポジションは大きく分けて、ハンドラー（3人） レーンカッター（4人）になります。ハンドラーの役割はロングシュートを決めること、そしてとにかくディスクを落とさずにロングシュートのチャンスが来るまで、繋ぐことです。レーンカッターの役割は、ロングシュートを取ることで、そしてミートパスならば多くのゲインを獲得するように、大きな動きをすることです。



図 1.1

このホライゾンタルオフENSEはパーティカルオフENSEがフォールドの左右のスペースを使うのに対して、上下のスペースを活用します。

・基本プレー（1）

レーンカッターは相手を邪魔しないと言う基本原則を守れば、誰がどこに走ってもいいとされています。

ただし、基本的にはレーンカッターのうち、センターに位置している二人のどちらかが最初に動きだすのが一般的です。

（図 1.2）

まずは大きくスペースがある奥のスペースを狙うのが基本となります。どちらのレーンカッターが走るのかは、サインもしくはアイコンタクトなどで決めます。

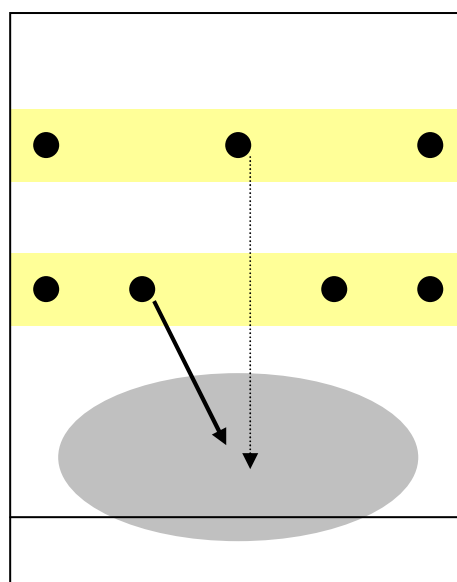


図 1.2

・基本プレー（２）

ロングシュートが相手のディフェンスや風などの理由で投げられない時、レーンカッターはカットバックしてミートパスをもらいます。大切なのは、大きくロングパスをもらう動きをすることによって、手前のスペースが作り出されるということです。

（図 1.3）

このことにより、ミートパスで大きなゲインを獲得することができます。この時、他のレーンカッターのディフェンスがポーチに行く場合があるので、ポーチされないような動き、もしくはポーチされた場合の素早い反応が必要となります。

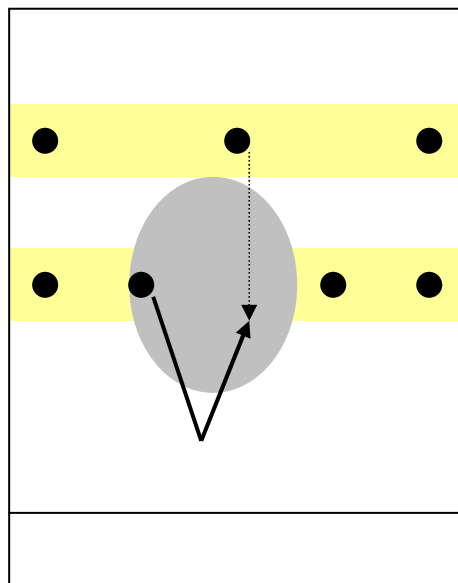


図 1.3

【その後の展開】

ミートパスが通った場合、次にパスをもらうのはもう一人のセンター寄りのレーンカッターです。他のプレーヤーは、ディスクの位置に合わせて、最初のポジショニング（図 1.1）になるように動きます。（図 1.4）

この時、ハンドラーの一人は、一時的にレーンカッターの位置にポジションし、常に最初のポジショニングを作ることが大切です。

（図 1.4 の太点線の動き）

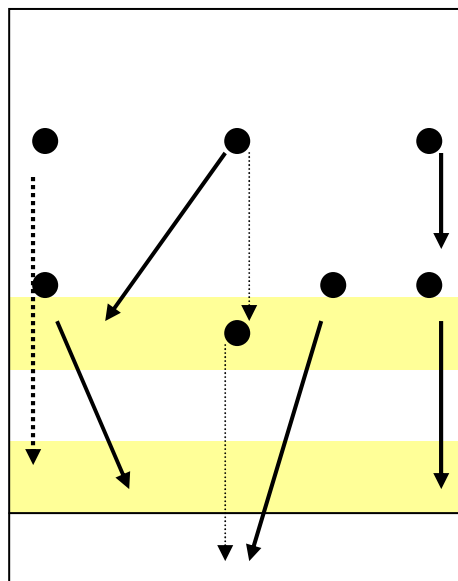


図 1.4

・応用：ディスクがサイドライン近くにある時
ホライズンタルオフenseではセンターにディスクがあることが望ましいですが、サイドにある場合も基本的なコンセプトは同じです。この場合、一番初めに動き出すのはディスクのあるサイドよりにいるレーンカッターです。まずは奥にある大きなスペースを狙います。また、ロングパスをケアされた場合には、手前にあるスペースでミートパスをもらいます。（図 1.4）

ロングパスもミートパスも出せない場合には、素早くセンターの位置のハンドラーにディスクを渡します。注意しなければ、いけないのは、サイドライン寄りの位置でディスクをキープし続けず、早めにセンターに渡すということです。

・応用：レーンカッターのコンビネーション
ホライズンタルオフenseではレーンカッター同士がお互いの位置や動きを見ながら、自由にディスクをもらいに行くことができます。重要なのは、レーンカッター同士のコンビネーションです。

例えば、図 1.6 の状態で一人のレーンカッターがロングパスをもらう動きをした時、近くのレーンカッターはミートパスをもらう動きをするとポーチを防ぎ、最初に動き出したレーンカッターをサポートすることになります。

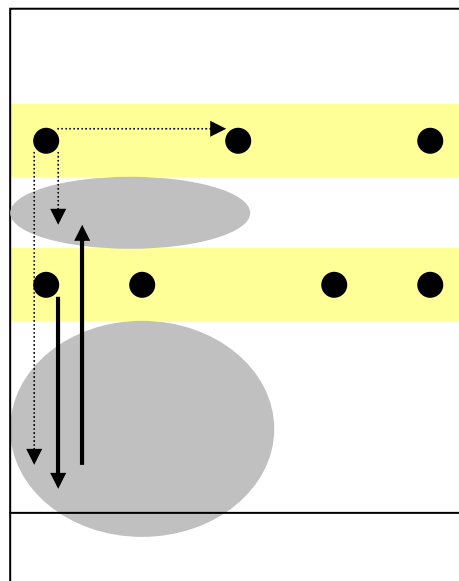


図 1.5

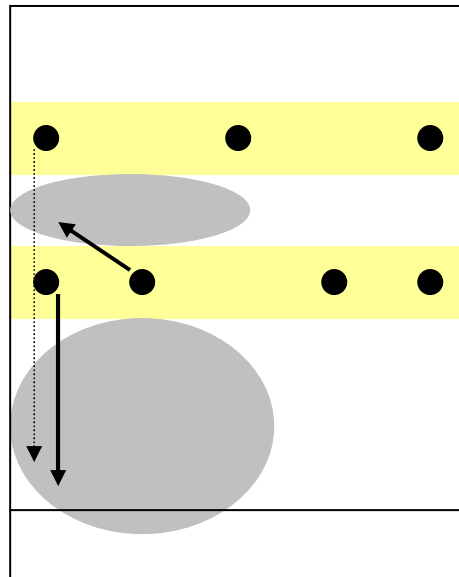


図 1.6

・応用：セットプレー

ホライゾンタルオフenseではセットプレーの使用する機会が多く、非常に有効です。ここでは、実際に2002UPAチャンピオンのFurious Georgeで使われていたセットプレーのいくつかを紹介します。

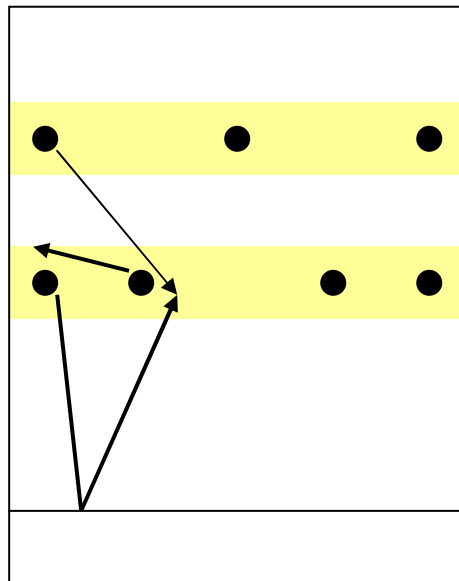


図 2.1

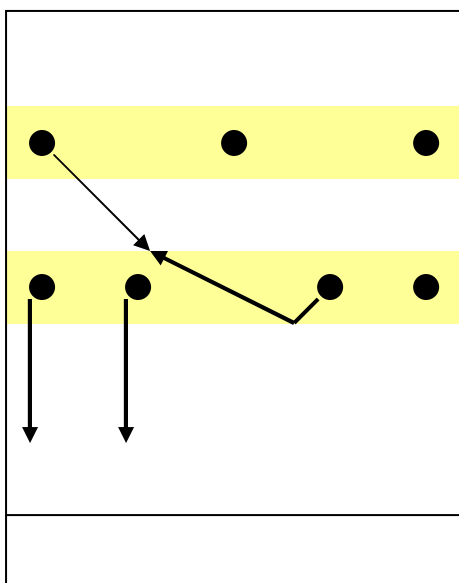


図 2.2

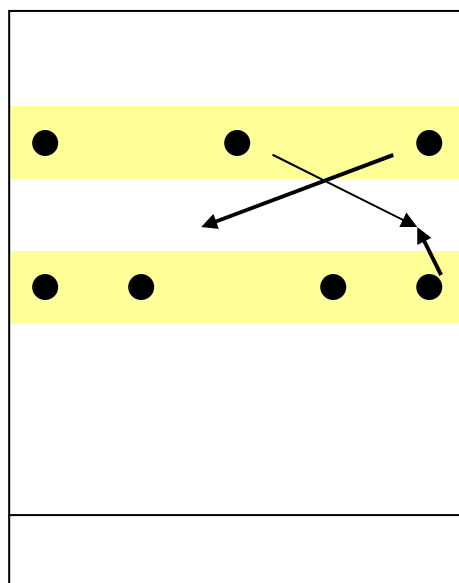


図 2.3